

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立呼子小学校	
1 前年度 評価結果の概要	<p>・「呼子プライドを育む教育」として、地域を題材とした学習を充実させた。それによって、学んだことを発信する表現力と共に呼子を誇りに思う気持ちが育った。今後もこのような取組で自己肯定感を高め、夢に向かって努力する児童の育成を図っていく。</p> <p>・表現力を育てるためにも学力の向上を目指し、「よぶこっこ学習過程」により、かく力を育てる。</p>	
2 学校教育目標	自他を大切にするとともに、主体的に考え・動く子どもの育成	目指す児童像 めざせ！キラリと光る 呼子っ子 よ よく聞き考え 進んで勉強(かしこく=学力の保障) が ぶつかるやる気 バリバリ仕事(あたたかく=勤労奉仕) こ ことばハキハキ あいさつ礼儀(あたたかく=自他の尊重) つ つげようけじめ なくすいじめ(あたたかく=差別解消)

3 本年度の重点目標	<b>【令和6年度 呼子小重点プロジェクト】</b> ①学力の保障 ②ひとりひとりを大切にすること ③呼子プライドを育む教育 ④業務改善	
------------	---	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	○学習内容の基礎的学力・学習規律の定着	○「家庭学習に取り組むように声をかけている」保護者の割合が80%以上(アンケート) ○「家庭学習時間や授業内容を意識した宿題を出したり事後指導したりした」教師の割合90%以上(アンケート) ○「長期休業明けのたしかめテストで最終通過率80%以上の児童の割合80%以上(テスト結果)」 ○読書目標達成児童80%以上	・「よぶこっこ学習だより」を月1回発行し、保護者への啓発を図る。 ・「レベプリ」と「ぐんぐんタイム」の、全校の共通実践を行う。 ・宿題や適用問題の全体指導及び個別指導を行う。 ・朝の読書の取り組みや必読図書の設定を行い、読書を推奨する。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校は楽しい」と答える児童90%以上(児童アンケート) ○児童集会で感想交流が昨年度より活発になる。(観察) ○「友達の良いところを見つけることができる」と回答した児童85%以上。	・他者を認め合う活動を全校級、一日一回以上設定する。 ・自尊感情を高めるために、委員会主体の取組や朝の会等で児童の「きらり」見つけ活動を行う。 ・児童集会やたてわり活動(掃除)において、異学年間での認め合う時間を大切にす。(時間・発言の場の確保)	A	・「学校は楽しいですか」というアンケートに96%の児童が肯定的な回答をしていた。 ・児童集会にて、小グループでの交流の時間を設定したことで、拳手をして感想を述べる児童が増えた。 ・「友達の良いところを見つけることができますか」というアンケートに86%が肯定的な回答をしていた。	A	・学校が楽しいと答える児童が96%もいることは、大変嬉しいこと。効果のある取組みは、ぜひ継続していただきたい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ○人権学習の実施	○いじめ防止等について組織的に対応できていると回答した職員90%以上(職員アンケート)。 ○「自分や友だちを大切にできた」と回答した児童90%以上(児童アンケート) ○「学校では道徳や人権教育などがきちんと実施されている」と回答した保護者90%以上(保護者アンケート)	・毎月第3日曜日「心のアンケート」を実施して、児童の実態を把握し、早期対応を行う。全職員で共通理解を図り、学校全体で児童に対応していく。 ・部落差別を解消するための学習の取組(6年)を行う。 ・全校道徳の実践(年1回)、言葉遣いについて考えさせる強化週間の取組(年2回)を行う。 ・SCやSSW巡回指導等の外部機関を活用する。 ・QAアンケートを実施し、それを学級づくり生かすための研修を行う。	・職員、児童、保護者ともに目標値を上回ることができた。 ・「心のアンケート」を継続して、早期対応ができているが、アンケートを活用した全職員の共通理解を深める必要がある。 ・いじめ防止の観点で全校道徳に取り組む、子どもたちの意識を高めていこうと努めた。 ・SCを活用し、個別の相談はもちろん、各学年で授業を実施し、トラブルに対応する力を高めることができた。	A	・定期的なアンケートによって、児童が素直に心のもやもやを吐き出す事ができていると思う。 ・不登校を生まない学校づくりが大切。朝の対応で子どもも変わると思うので、SCが親子共にカウンセリングをしていることは効果があると思う。	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童85%以上	・地域を生かした学習や夢・目標について考えさせる場面を設け、教科、学校行事等を通して、郷土を誇りに思う心や自己肯定感を高める。 ・キャリアパスポートに学習成果物や学習評価物を整理する機会を、学期に2回設ける。 ・児童一人ひとりが活躍できる場をつくる教育活動に取り組む。	・縦割り発表会やすごごと集会など、一人一人が練習の成果を発揮したり、得意なことを発表したりする機会を設けることができた。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」というアンケートに92%が肯定的な回答をしていた。 ・「将来の夢や目標をもっていますか」というアンケートに87%の児童が肯定的な回答をしていた。 ・キャリアパスポートを整理する機会を学期に2回設けた学年は6学年中3学年しかなく、呼びかけの仕方工夫が必要だった。	B	・縦割り発表会やすごごと集会など、一人一人が練習の成果を発揮したり、得意なことを発表したりする機会を設けることができた。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」というアンケートに92%が肯定的な回答をしていた。 ・「将来の夢や目標をもっていますか」というアンケートに87%の児童が肯定的な回答をしていた。 ・キャリアパスポートを整理する機会を学期に2回設けた学年は6学年中3学年しかなく、呼びかけの仕方工夫が必要だった。	B
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上	・毎朝、健康チェックの際に朝ごはんの喫食状況を確認し、食べていない児童には個別に指導する。 ・給食時間中に各教室で食事のマナーに関する指導を行う。また、給食の放送原稿を作成し、毎日給食委員会より放送してもらう。 ・毎月1回程度、家庭へ給食だよりを配付する。	A	・「健康に良いバランスの取れた食事はできていると思いますか?」という児童アンケートに95%の児童が肯定的な回答をしていた。 ・給食放送を年度途中から提供できなくなりましたが、各学級で食育の取り組みを行うことができた。	A	・給食を残さず食べて欲しい。 ・朝ごはんを食べることができない児童は、まずは、生活リズムを整えることが必要。早寝・早起き・朝ごはんは、大切だと思う。
	○児童の体力の向上	○「外遊びを奨励し、佐賀県のスポーツチャレンジに全学級が取り組む」 ○「進んで外遊びやスポーツチャレンジに取り組んだ」と回答した児童90%以上。	・佐賀県のスポーツチャレンジについて取組月間を設け、各学級で一回は必ずチャレンジするよう呼びかける。 ・児童主体の縦割りなわとびタイムを11月に実施する。	A	・スポーツチャレンジに全学級取り組んだ。 ・縦割りなわとびタイムを9回実施し、児童の外遊びを推奨した。校庭で大縄をして遊ぶ児童の姿が見られた。 ・「進んで外遊びやスポーツチャレンジに取り組んだ」という質問に肯定的に回答した児童は91%だった。	A	・目標をもって、スポーツに取り組むことは良いことだと思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する ○月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合15%以下。	・前年度比の数値を示し、タイムマネジメントを意識した働き方に取り組む。 ・行事等に見通しをもって取り組んだり、互いに声を掛け合ったりしてハッピーフライデー(定時退勤日)に学校全体で取り組む。月末は、スーパーハッピーフライデーとして、17:30全員退勤を厳守する。	A	・昨年度と比較すると、時間外在校時間は10%減少。 ・ハッピーフライデー(定時退勤日)に、17:30全員退勤ができる日が増えた。 ・在校時間外が平均45時間を超える職員0%	A	・働き方改革を進めて、先生方の健康を守ることを考えて欲しい。
	○教育活動のUD化 ○特別支援教育の充実	○「どの子も楽しく理解できる授業づくりのために、指示の出し方や説明の仕方においてUD化に努めた。」と答える教師が90%以上(教師アンケート)	・人権が尊重される環境づくりを視点にした授業・教室環境のUD化に努める。 ・教職員の特別支援教育についての知識や理解を深める研修を行う。 ・特別支援教育Cを中心とした支援体制のもと、支援を要する児童の実態を把握し、子ども支援会議、ケース会議を通して、全職員の共通理解を図ることで有効な支援をする。 ・SCやSSW巡回指導等の外部機関を活用する。 ・授業のUD化で児童の学習理解を進める。 ・UD教育の冊子を活用する。 ・教師一人一人がUD化に向けた目標をもって取り組む。 ・特別支援教育の理解、啓発のために、保護者に向けた通信を発行する。	A	・特別支援教育についての理解を深める研修や情報提供をすることで、職員がUD化を意識したどの子も楽しく理解できる授業づくりを行うことができた。 ・UD資料をまとめ、その活用を呼びかけることで、実際の指導にいかすことへつながった。 ・通信に関して、担当者から職員や保護者に対して一方的に情報を提供する形になっていたため、今後は、職員や保護者がほしい情報を集めて伝えられるようにしたい。	A	・先生方が、研修を実施することで特別支援に関する理解が深まり、子どもの特性に合った指導ができていると思う。 ・学校での取組みを保護者に継続して発信していくと良い。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○呼子プライドを育む教育	○「学校では地域の良さを学ぶ学習に取り組んでいる」と肯定的な回答をした保護者が80%以上(保護者アンケート) ○「地域を生かした学習に取り組んだ」と肯定的な回答をした教師が80%以上(教師アンケート)	・地域を題材とした総合的な学習の時間の見直しと再構築を行う。 ・3、4、5年の総合的な学習の時間を中心に、「地域のひと・こと・もの」と関わりながら、呼子の海・よさ・歴史・環境の学習を年間20時間以上実施する。	A
●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育							
5 総合評価・次年度への展望	<p>・「呼子プライドを育む教育」として地域を題材とした学習を充実させ、その取組みを発信することができた。取組みの振り返りを大切にし、自己肯定感を高めていくことで夢に向かって努力する児童の育成を図っていく。</p> <p>・校内研究により、共通した取組みを継続して「かく力」を育てると共に、家庭学習の充実を図り、基礎・基本の定着を目指す。</p>						